



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月14日

上場会社名 株式会社Sharing Innovations 上場取引所 東
コード番号 4178 URL <https://sharing-innovations.com>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）堤 貴寛
問合せ先責任者 （役職名）取締役CFO （氏名）西田 祐 TEL 03（6456）2451
半期報告書提出予定日 2026年8月14日 配当支払開始予定日 ー
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	1,949	△15.7	82	206.9	83	445.3	41	-
2025年12月期中間期	2,312	△9.3	26	△74.2	15	△85.3	△5	-

（注）包括利益 2026年12月期中間期 41百万円（-％） 2025年12月期中間期 △6百万円（-％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	11.03	10.59
2025年12月期中間期	△1.46	-

（注）2025年12月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため、記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期中間期	2,349	1,651	70.2
2025年12月期	2,330	1,609	69.0

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 1,650百万円 2025年12月期 1,608百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2026年12月期	-	0.00			
2026年12月期（予想）			-	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,500	0.9	120	19.6	119	27.8	40	66.9	10.68

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2026年12月期中間期	3,793,300株	2025年12月期	3,793,300株
2026年12月期中間期	49,700株	2025年12月期	49,700株
2026年12月期中間期	3,743,600株	2025年12月期中間期	3,743,600株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調にありましたが、ウクライナ・ロシア情勢、中東情勢、米国の政策動向などの国際情勢に加え、原材料・エネルギー価格の高騰などのリスクがあり、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの主要事業であるデジタルトランスフォーメーション事業を取り巻く環境といたしましては、IT人材不足が今後ますます深刻化し、2040年には約73.3万人程度までIT人材の不足規模が拡大するとの推計結果が出ております。（出所：ヒューマンリソシア株式会社「～IT人材の2040年の人材需給ギャップを独自試算～IT人材は2040年に最大73.3万人不足と推計」）

また、デジタルトランスフォーメーション（DX）のトレンドが進展する中、生産性の向上や業務の効率化を目的にクラウドファースト戦略を実行する企業は引き続き増加傾向となっております。また企業が従来型ITからクラウドへ移行するクラウドマイグレーションは、対象システム領域の多様化が顕著となっており、WEBシステムや情報系システムから基幹系システムへと対象システム領域が拡大しております。2024年の国内クラウド市場は、前年比29.2%増の9兆7,084億円（売上額ベース）となりました。また、2024年～2029年の年間平均成長率（CAGR：Compound Annual Growth Rate）は14.6%で推移し、2029年の市場規模は2024年比約2.0倍の19兆1,965億円になると予測されております。（出所：IDCJapan株式会社「国内クラウド市場予測、2024年～2029年」）

このような環境のもと、当社グループのデジタルトランスフォーメーション事業においては人材確保とIT技術の教育により、開発体制強化に努めてまいりましたが、前連結会計年度において、当社グループを取り巻く外部環境の変化を受け、Salesforce領域、SES領域の収益が減益となり、データ・AI、ITコンサルティングといった新規事業領域が伸長するも、当初の計画を下回りました。これを受けて、当社では、「安定的な人材確保」「中間マネジメント層の醸成」「ソリューションのポートフォリオ化」（短期）、「中期的なビジネスモデルの検討」「トレンド技術領域への適応」（中期）を重点課題と捉えております。当社は、当連結会計年度を「リカバリ期」と位置づけ、これらの課題に対する投資を実行し、ビジネスモデル、収益性、事業ポートフォリオの面で改善を図ってまいります。当中間連結会計期間においては、計画を前倒しして進捗しております。

以上の結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高1,949,547千円（前年同期比15.7%減）、営業利益82,703千円（前年同期比206.9%増）、経常利益83,199千円（前年同期比445.3%増）、親会社株主に帰属する中間純利益41,273千円（前年同期の親会社株主に帰属する中間純損失は5,464千円）となりました。

セグメントの経営成績を示すと、次のとおりであります。

① デジタルトランスフォーメーション事業

当事業においては、事業開始からM&Aを推進し、同時にIT人材の採用を行うことで開発体制の拡充を進めてまいりました。IT利活用の多様化・高度化に伴い拡大するIT需要を取り込み、各種Webシステム開発、スマホアプリ開発、クラウドインテグレーション等の案件を受注しております。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は1,754,891千円（前年同期比17.6%減）、セグメント利益（営業利益）は216,442千円（前年同期比32.8%増）となりました。

② プラットフォーム事業

プラットフォーム事業においては、「チャットで話せる占いアプリ-ウララ-」を主力としたスマートフォン向けアプリの企画・開発・運営などに取り組んでおります。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は209,355千円（前年同期比5.5%増）、セグメント利益（営業利益）は34,264千円（前年同期比33.0%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当中間連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べて19,070千円増加し、2,349,229千円となりました。主な要因は、現金及び預金が201,387千円増加した一方、受取手形、売掛金及び契約資産が118,111千円、のれんが56,251千円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べて22,531千円減少し、697,911千円となりました。主な要因は、未払法人税等が28,245千円増加した一方、買掛金が49,391千円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて41,601千円増加し、1,651,318千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により利益剰余金が41,273千円増加したこと等によるものであります。

（3）キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ201,376千円増加し、1,379,897千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は228,366千円（前年同期比198,589千円増）となりました。これは主に税金等調整前中間純利益83,199千円及び売上債権の減少が118,113千円、のれん償却額が56,251千円あった一方、仕入債務の減少が49,391千円等あったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は564千円（前年同期は11,866千円の獲得）となりました。これは主にその他に含まれる敷金及び保証金の差入による支出が400千円、有形固定資産の取得による支出が220千円等あったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は27,876千円（前年同期比15,004千円減）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出27,876千円があったことによるものです。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年2月13日に公表しました業績予想に変更はありません。下期にかけて採用などの投資を実行する想定のため、連結業績予想は据え置きとしております。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

（1）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,178,849	1,380,236
受取手形、売掛金及び契約資産	482,381	364,270
仕掛品	1,412	-
その他	116,224	113,922
流動資産合計	1,778,866	1,858,430
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3	3
工具、器具及び備品（純額）	2,519	2,408
有形固定資産合計	2,522	2,411
無形固定資産		
のれん	512,125	455,873
その他	13,393	8,982
無形固定資産合計	525,518	464,856
投資その他の資産		
繰延税金資産	3,826	4,524
その他	19,423	19,006
投資その他の資産合計	23,250	23,531
固定資産合計	551,292	490,799
資産合計	2,330,159	2,349,229
負債の部		
流動負債		
買掛金	202,735	153,343
未払費用	111,455	98,426
1年内返済予定の長期借入金	55,752	55,752
賞与引当金	-	1,151
未払法人税等	22,785	51,030
その他	125,236	163,605
流動負債合計	517,964	523,309
固定負債		
長期借入金	202,478	174,602
固定負債合計	202,478	174,602
負債合計	720,442	697,911

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年 6 月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	436, 525	436, 525
資本剰余金	433, 525	433, 525
利益剰余金	841, 890	883, 164
自己株式	△101, 444	△101, 444
株主資本合計	1, 610, 497	1, 651, 771
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△2, 057	△1, 729
その他の包括利益累計額合計	△2, 057	△1, 729
新株予約権	1, 276	1, 276
純資産合計	1, 609, 716	1, 651, 318
負債純資産合計	2, 330, 159	2, 349, 229

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自2025年1月1日 至2025年6月30日）	当中間連結会計期間 （自2026年1月1日 至2026年6月30日）
売上高	2,312,998	1,949,547
売上原価	1,883,485	1,457,354
売上総利益	429,513	492,192
販売費及び一般管理費	402,569	409,489
営業利益	26,944	82,703
営業外収益		
受取利息	562	1,326
業務受託料	1,200	1,200
為替差益	-	643
営業外収益合計	1,762	3,169
営業外費用		
支払利息	1,515	1,993
為替差損	2,667	-
支払手数料	9,266	680
営業外費用合計	13,449	2,674
経常利益	15,257	83,199
税金等調整前中間純利益	15,257	83,199
法人税、住民税及び事業税	18,255	42,623
法人税等調整額	2,465	△697
法人税等合計	20,721	41,925
中間純利益又は中間純損失（△）	△5,464	41,273
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に 帰属する中間純損失（△）	△5,464	41,273

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自2025年1月1日 至2025年6月30日）	当中間連結会計期間 （自2026年1月1日 至2026年6月30日）
中間純利益又は中間純損失（△）	△5,464	41,273
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,259	328
その他の包括利益合計	△1,259	328
中間包括利益	△6,723	41,601
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	△6,723	41,601

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自2025年1月1日 至2025年6月30日）	当中間連結会計期間 （自2026年1月1日 至2026年6月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	15,257	83,199
減価償却費	5,194	4,743
のれん償却額	53,494	56,251
賞与引当金の増減額（△は減少）	1,771	1,178
受取利息	△562	△1,326
支払利息	1,515	1,993
為替差損益（△は益）	4,094	△1,540
売上債権の増減額（△は増加）	81,061	118,113
棚卸資産の増減額（△は増加）	△923	1,417
その他の流動資産の増減額（△は増加）	794	2,502
仕入債務の増減額（△は減少）	△64,108	△49,391
未払消費税等の増減額（△は減少）	△15,768	30,985
その他の流動負債の増減額（△は減少）	20,075	△7,000
その他	83	787
小計	101,978	241,913
利息の受取額	562	1,326
利息の支払額	△1,515	△1,993
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△71,247	△12,878
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,777	228,366
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△312	△220
貸付金の回収による収入	870	-
敷金及び保証金の回収による収入	11,478	56
その他	△170	△400
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,866	△564
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△25,000	-
長期借入金の返済による支出	△17,880	△27,876
財務活動によるキャッシュ・フロー	△42,880	△27,876
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,382	1,449
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△4,617	201,376
現金及び現金同等物の期首残高	1,088,590	1,178,521
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,083,972	1,379,897

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

（会計上の見積りの変更）

該当事項はありません。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間（自2025年1月1日 至2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 （注） 1	中間連結 損益計算書 計上額 （注） 2
	デジタルトランスフ ォーメーション事業	プラットフォーム 事業	計		
売上高					
クラウド	347,674	-	347,674	-	347,674
インテグレーション システム	1,693,158	-	1,693,158	-	1,693,158
ソリューション					
その他	73,733	198,432	272,165	-	272,165
顧客との契約から 生じる収益	2,114,566	198,432	2,312,998	-	2,312,998
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	2,114,566	198,432	2,312,998	-	2,312,998
セグメント間の内部 売上高又は振替高	14,603	-	14,603	△14,603	-
計	2,129,170	198,432	2,327,602	△14,603	2,312,998
セグメント利益	162,981	25,756	188,737	△161,793	26,944

（注） 1. セグメント利益の調整額△161,793千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間（自2026年1月1日 至2026年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	デジタルトランスフ ォーメーション事業	プラットフォーム 事業	計		
売上高					
クラウド インテグレーション システム	286,453	-	286,453	-	286,453
ソリューション	1,283,328	-	1,283,328	-	1,283,328
その他	170,410	209,355	379,765	-	379,765
顧客との契約から 生じる収益	1,740,191	209,355	1,949,547	-	1,949,547
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,740,191	209,355	1,949,547	-	1,949,547
セグメント間の内部 売上高又は振替高	14,700	-	14,700	△14,700	-
計	1,754,891	209,355	1,964,247	△14,700	1,949,547
セグメント利益	216,442	34,264	250,706	△168,002	82,703

- (注) 1. セグメント利益の調整額△168,002千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。